

テーマ：誰もが通いたい「安全・安心な学校」づくり

安全・安心な学びの環境づくり

I 将来像

- 安全・安心な学びの環境が整っている
- 子供たちの健やかな学習・生活を支える魅力ある学校施設となっている

II 現状の課題

- 築40年以上となる建物が約46%と施設の老朽化が進んでおり、それらが一齐に改修時期を迎える
- 多様な生徒に対応するためのバリアフリー化（エレベーター、トイレ改修等）の推進（トイレ洋式化率50.1%）
- 34都道府県（72.3%）が普通教室の空調を公費化
- 環境に配慮した施設整備（県産材活用、太陽光発電等）

2年後の目指す姿

- 長寿命化改修事業のコスト平準化も含めた計画的な推進
- 全ての県立普通高校へのエレベーターの設置、トイレ改修
- 県立高校の空調設備の公費化
- ゼロカーボンに向けた施設整備

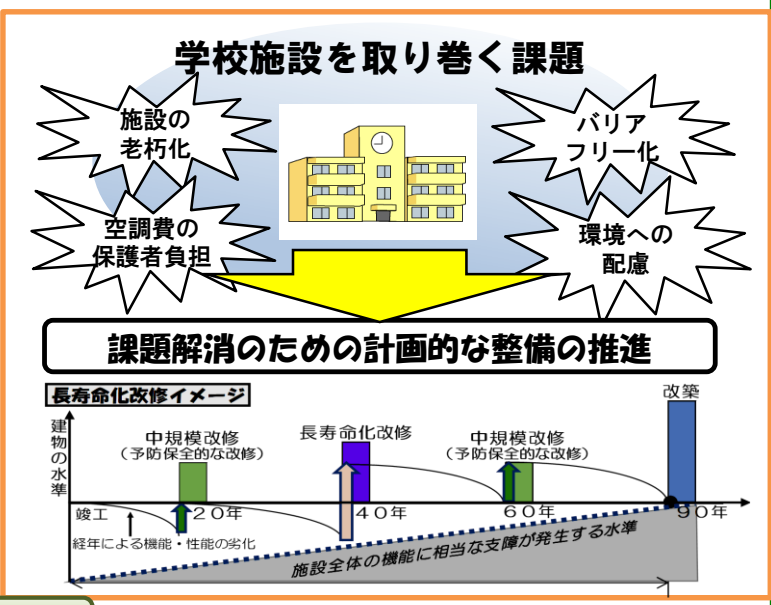
III 2年後の到達点に向けた取組の方向性

1 安全・安心な学びの環境づくり

- (1) 学校施設の長寿命化改修の計画的な実施
老朽化した学校施設の改築及び長寿命化改修検討
- (2) 学校施設のバリアフリー化の推進
 - 県立高校へのエレベーター設置
 - 県立高校普通教室棟のトイレ改修
- (3) 県立高校空調設備の公費化の推進検討
 - 空調未設置校（寒冷地校）への空調設備設置検討
 - 公費化に係る電気代等増に伴う学校運営費の拡充検討

2 いじめ・不登校への対応

- (1) 未然防止及び早期発見
 - スクールカウンセラー（SC）の活用
教育事務所配置SCの拡充検討、特別支援学校への追加配置検討 ほか
 - スクールソーシャルワーカー（SSW）の活用
ヤングケアラーへの対応や県全体の相談時間拡充検討
 - 学校支援アドバイザーの配置
 - スクールロイヤーの活用
 - ネットいじめ等への早期対応



いじめ・不登校への対応

I 将来像

- 全ての不登校児童生徒が支援を受け、社会的自立を目指すことができる
- いじめを受けた児童生徒が誰かに相談ができる解決ができる

II 現状の課題

- 不登校児童生徒の専門家からの支援が不十分
- いじめを受けた児童生徒が誰かに相談できていない
- ヤングケアラーへの実態把握及び支援

2年後の目指す姿

- 不登校、ヤングケアラー等への支援が必要な児童生徒やその家庭に対する専門家、関係機関からの支援の充実
- 児童生徒、教職員が一緒になったいじめのない学級、学校づくり、組織的な対応の構築

(2) 初期対応及び解消に向けた取組

- 自立支援に向けた取組
教育支援センター等整備に係る市町村支援
子供の居場所づくり推進連絡協議会（フリースクール等との連携）
- いじめ等の問題に関する地域別研修の実施検討
情報集約担当者を中心とする組織対応の推進
- 「愛の1・2・3運動+1」の実施

※ 特別な支援を要する児童生徒への対応

- (1) 医療的ケアが必要な児童生徒が在籍する県立学校に対する看護師配置の拡充検討
- (2) 人工呼吸器の装着が必要な児童生徒に対する看護師利用補助の拡充検討

※ 通学路における安全安心の確保 【土木部・県警本部と連携】

- (1) 学校安全教室の推進
 - 交通安全担当者を対象とした交通安全教育に関する研修会
- (2) 通学路の安全確保に向けた取組
 - 通学路交通安全プログラムに基づく合同点検の実施

テーマ：夢の実現に向けた「誰一人取り残さない学び」の推進（～貧困の連鎖を教育で断つ～）

I 将来像

- 熊本の全ての子どもたちが、「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を身に付けることを目指す
- 誰もが自らの夢に向けて挑戦できるよう、学びを保障し、「確かな学力」を育成する

II 現状の課題

- 基礎学力の未定着：小学校から中学校に上がると、正答率3割未満の割合が増加し、本県中学2年生は約2割に達する（数・英）（R2県学調）
- 貧困を背景とする学力格差は小学校低学年時点で存在する

2年後の目指す姿

- R5全国学力調査：全5教科で全国平均を上回る（現状は4教科中1教科）
- R5県学力調査：正答率3割未満の割合をR2調査から2割減らす

III 2年後の到達点に向けた取組の方向性

1 学びの保障

- (1) 豊かな育ち・学びに関する総合支援
 - 小学校低学年における学習支援員の配置
小学校低学年において、TTや補充指導等のきめ細かい指導を行う
 - 地域における学習を支援する取組との連携強化【健康福祉部と連携】
より多くのひとり親世帯や生活困窮者等の子ども達が学習できる環境の整備
(地域の学習教室(子ども家庭福祉課)、学習教室(社会福祉課)、地域未来塾(社会教育課))
- (2) 夜間中学新設の検討
- (3) ICT教育日本一（コロナ禍、不登校等におけるオンライン授業の推進）
○くまもとGIGAスクールプロジェクト推進

2 学力向上（英語教育日本一）

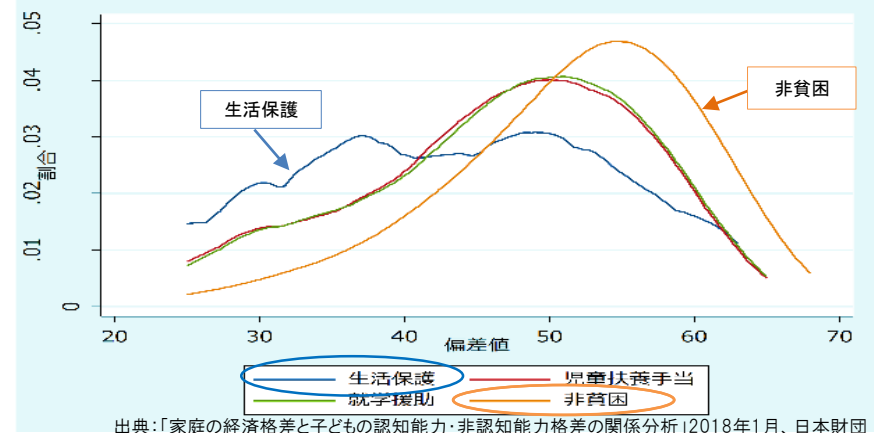
【小中学生】

- (1) 学力向上に向けた取組の推進
 - 「熊本の学び」ステップ・アップ研修
小学校低学年等の基礎学力定着を図る授業改善等の実践的研修
 - 県学力・学習状況調査の実施
一人一人の学力の状況や伸びを踏まえた、個に応じた指導の拡充
- (2) 英語教員の指導力向上
 - 小学校・中学校英語授業づくりプロジェクト
指導主事が授業を複数回訪問し、授業改善の具体的な助言を行う

正答率3割未満の児童生徒の割合(%) (R2県学力調査)

	国語	算・数	英語
小3	5.2	3.7	
小4	3.3	3.6	
小5	2.9	4.7	
小6	1.9	2.3	
中1	3.2	12.0	8.6
中2	2.6	18.6	20.5

偏差値（全科目平均）の経済状況別分布（7-9歳）



出典：「家庭の経済格差と子どもの認知能力・非認知能力格差の関係分析」2018年1月、日本財団

小学校の早い段階から誰一人取り残すことなく、学べる環境を整備し、学力を保障する

- (3) 学力向上・学級経営等の支援
 - 学力向上重点支援地域への学力向上アドバイザーの派遣・支援強化
- (4) 豊かな育ち・学びに関する総合支援【再掲】
 - 小学校低学年における学習支援員の配置
 - 地域における学習を支援する取組との連携強化【健康福祉部と連携】
- (5) 教員の指導力向上
 - スーパーティーチャーの増員検討

テーマ：みんなから選ばれる「魅力ある県立高校」づくり

I 将来像

- 新しい時代に対応したすべての高校生が夢に挑戦できる魅力ある県立高校
- 「夢を実現する力」を育む学校
 - 地域で夢を拓げ、地域の未来を支える人材を育てる学校
 - 夢への挑戦を支える学校

II 現状の課題

- 令和3（2021）年度の県立高校の定員割れの状況は50校中41校で2,932人とここ10年で約3倍に拡大（H19（2007）年度：1,034人）

2年後の目指す姿

- ・マンガ関連学科等特色ある学科等の設置や学科改編により、高校の魅力が向上している
- ・魅力化の取組により県立高校への入学を希望する生徒が増加した高校の学科・コースの割合 R2(2020)年度 50.3% → R6(2024)年度 80.0%

III 2年後の到達点に向けた取組の方向性

1 各学校の特色や強みを生かした取組を重点的に推進

- (1) 熊本スーパーハイスクール(KSH)構想
- 新たな県独自指定校を設置検討
 - 特色ある学びを推進する高校を重点的に支援

	分類	概要
1	イノベーションハイスクール	県立高校のフロントランナーとしてカリキュラム開発や実践研究を行う
2	プロフェッショナルハイスクール	産学官連携による学びの深化や、企業等と連携した実践的・体験的な学びを推進
3	クリエイティブハイスクール	地域振興の核としての高校の機能強化や魅力ある高校づくりに取り組むための協働体制づくり、地域資源を活用した探究的な学びを推進
4	エンパワーメントハイスクール	生徒の個性に応じた教育活動の充実を図るため、個別学習や体験学習の取組を推進

- 県立高校魅力向上のための情報発信
ホームページ、パンフレット、SNS等を活用した情報発信
- (2) 特色ある学科等の設置・検討
 - 国際バカロレア認定に向けた設置準備
 - 高森町・(株)コアミックスとの連携によるマンガ関連学科等（高森高校）の設置に向けた検討
 - 防災の学びの導入、普通科改革、学科改編の検討

2 高校間連携や多様なパートナーとの連携による取組を推進

- (1) 県立高校OneTeamプロジェクト
- 県立高校の強みを生かし複数の高校が連携して探究活動等を実施
- (2) マイスター・ハイスクールの取組
- 外部人材を活用し最先端デジタル技術を取り入れた授業や企業実習を実施
- (3) 高校間連携による生徒の目標の実現
- 高校間をオンラインで結び、就職や資格取得に向けた講座を、複数の高校が共同実施

3 地域の期待に応える魅力ある学校づくり（ICT教育日本一）

- (1) 校内通信ネットワーク整備検討
- 校内未整備の特別教室、職員室・事務室等に無線LANを整備し、児童生徒の学びの支援及び校務のICT化推進
- (2) くまもとCOREハイスクール・ネットワークの取組
- 開設科目の拡大や習熟度別授業の開設等のため、中山間地域等の高校と大規模校を結び遠隔授業を推進
- (3) 創造的教育方法実践プログラムの導入検討
- ICTを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを実現し、次世代を生きるための思考力・判断力・表現力等の伸長を図る
- (4) くまもと教育改革プログラムの拡充検討
- 「高校生のための学びの基礎診断」を活用し生徒の学習改善や教師の指導改善を図り、学力向上を推進

第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン関連指標の動向

【基本的方向性2】安全・安心に過ごせる学校づくり

指標名	策定時	目標値	R2実績値	直近の動向	策定時比
いじめを受けた児童生徒で、誰かに話をした、又は自分で解決できると答えた割合	80.4% <R元.12>	100% <R5.12>	79.1% <R2.12>	—	
不登校の児童生徒が、教職員だけではなく専門家からの支援を受けている割合 (公立小中学校)	89.7% <R2.3>	100% <R6.3>	84.2% <R3.3>	81.2% <R3.8>	

【基本的方向性3】確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成

指標名	策定時	目標値	R2実績値	直近の動向	策定時比
児童生徒の学力が向上した割合 (小中学校) (全国学力・学習状況調査で全国平均を上回った項目数)	1/5項目で全国 平均を上回る <H31.4>	すべて全国 平均を上回る <R5.4>	— (調査中止)	1/4項目で全国 平均を上回る <R3.5>	
生徒の学力が向上した割合 (高等学校) (「高校生のための学びの基礎診断」で学力が向上した生徒の割合)	52.9% <R2.3>	65% <R6.3>	55.1% <R3.3> (速報値)	—	

【基本的方向性5】キャリア教育の充実とグローバル人材の育成

指標名	策定時	目標値	R2実績値	直近の動向	策定時比
生徒が英語力を身に付けた割合 (中3：英検3級相当取得率 高3：英検準2級相当取得率)	中3 27.1% 高3 32.9% <R元.12>	中3 40.0% 高3 45.0% <R5.12>	中3 26.3% 高3 34.4% <R2.12>	—	中3 高3

【基本的方向性6】魅力ある学校づくり

指標名	策定時	目標値	R2実績値	直近の動向	策定時比
入学を希望する生徒が増加した県立高等学校の学科・コースの割合	50.3% <R2.9>	80% <R6.9>	50.3% <R2.9>	—	—

【基本的方向性7】子供たちの学びを支える

指標名	策定時	目標値	R2実績値	直近の動向	策定時比
学校における情報化が先進的である地域の数	[市町村立学校] 3地域 [県立学校] 0地域 <R2.3>	[市町村立学校] 44地域 [県立学校] 1地域 <R6.3>	[市町村立学校] 3地域 [県立学校] 0地域 <R3.3>	—	